

聖書が正典化されるまで ～創世記（年のはじめに）～

恵比寿聖書フォーラム
2023年1月16日

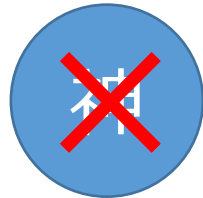
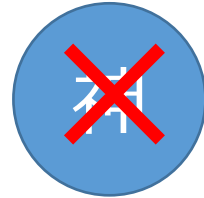
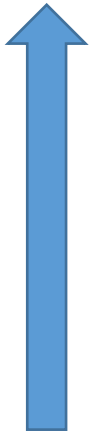
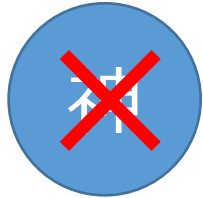
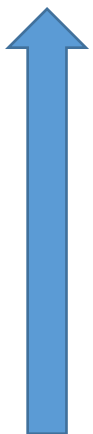
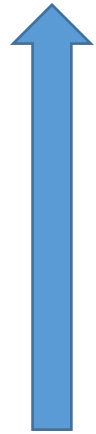
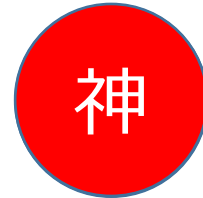
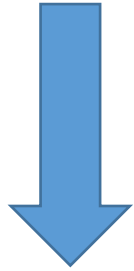
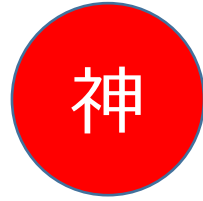


2023年 チャレンジしたいこと？

①

②

神認識



人間の経験や哲学的思考で得られる
神認識は不完全

人間から出発する神認識ではなく
神から出発する神認識が大事



啓示

聖書は啓示宗教の本



聖書

神は一度に全てを啓示されたのではない

1600年に渡り、40人以上の著者によって、少しずつ啓示された

漸進的啓示

真の著者である神の守りのもと、内容が有機的に関連し調和している

聖書の統一性

人間が神を知る方法は、ただ「神がご自身を現してくださった（啓示）
によってのみ可能であり、この神の摂理の中で完成されたのが聖書



しかしこの世のどんなものによっても聖書は神のことばだと証明することはできません。

聖書が絶対基準であって、それ以外のものがあるのであれば、聖書は絶対基準とならないからです。

信じて聖書を読む

一部は信じて一部は信じない ✕

聖書が沈黙しているなら、私たちも沈黙する

盲信する本
ではない

聖書

知的に理解できる本 → つまり **勉強** しない

歴史

地理

文化

これから起こること

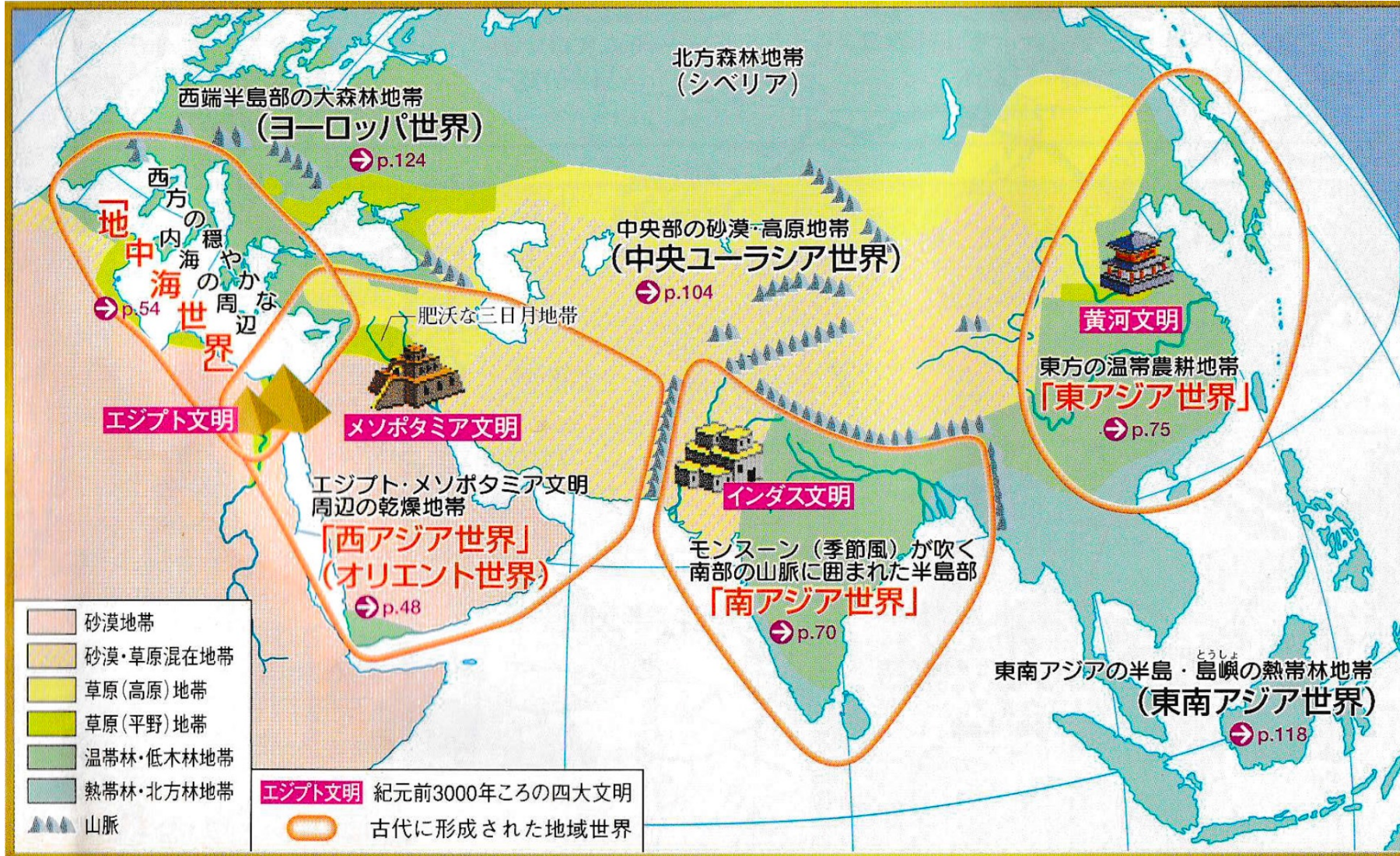
知的理解

聖霊に照らされて
悟ることができる

※それでも一部



前3000ころの四大文明



■文明の出現と風土

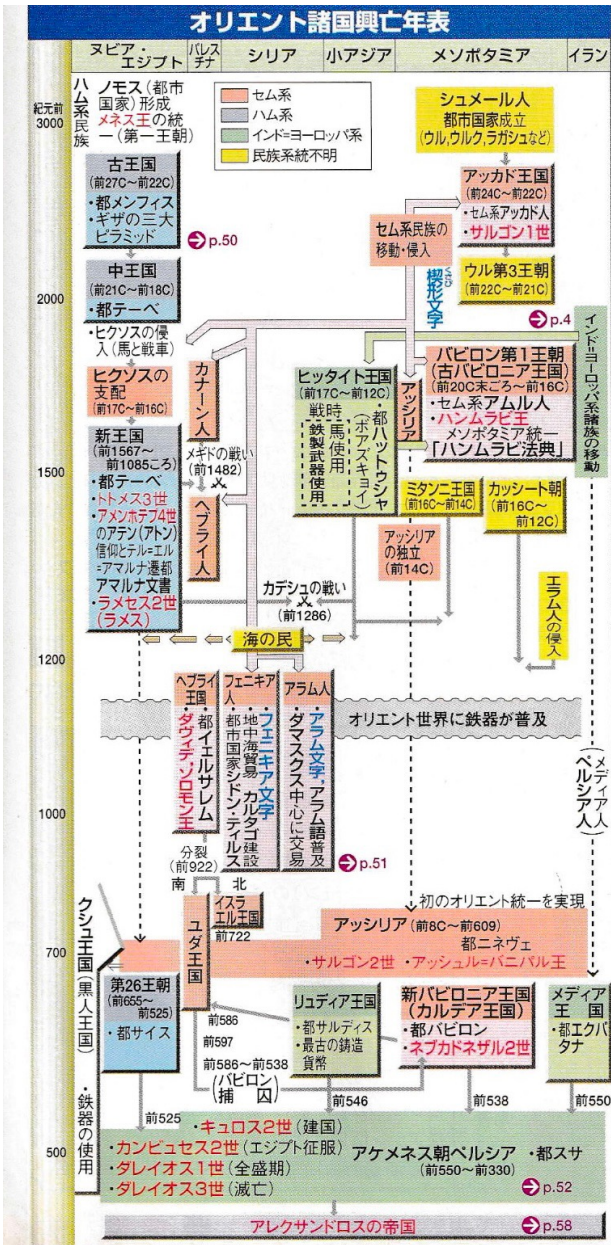
ユーラシアでは、大河周辺の平原で大規模灌漑農業がはじまり、紀元前4000年ころから都市文明が出現した。都市文明が周囲に影響し、紀元前後までには4つの地域的まとまり(地域世界)が出現した。

風土と農業生産適性

- 高 ↑
- 草原(平野)**
大規模灌漑農耕可能 (水利条件次第)
 - 温帯林・低木林**
大規模農耕可能 (開墾が必要)
 - 砂漠(オアシス)**
小規模農耕可能
 - 草原(高原)**
遊牧中心
 - 熱帯林**
物産豊富・居住困難
 - 北方林**
ほとんど不可
 - 砂漠**
不可
- ↓ 低



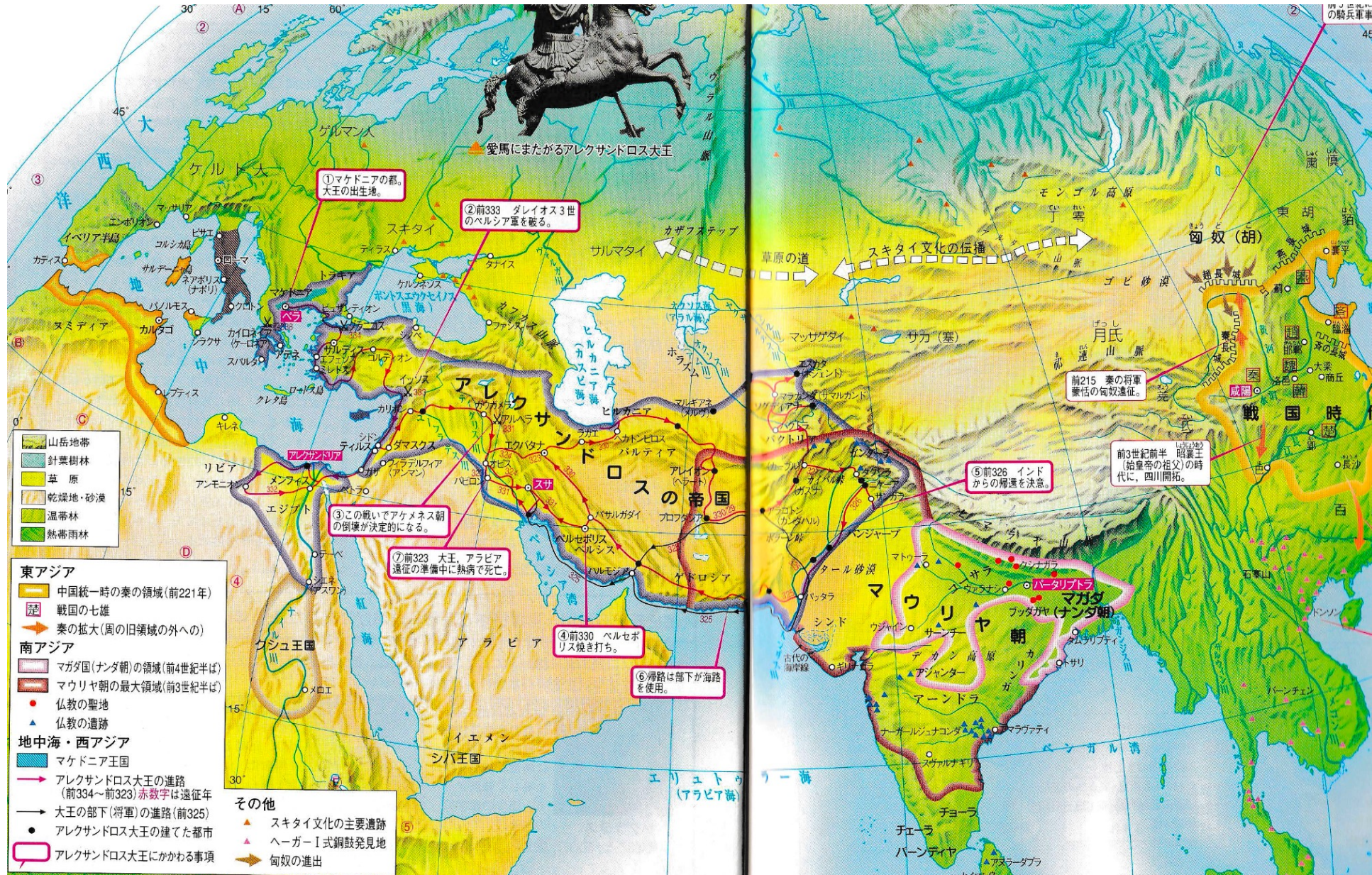
オリент諸国の興亡



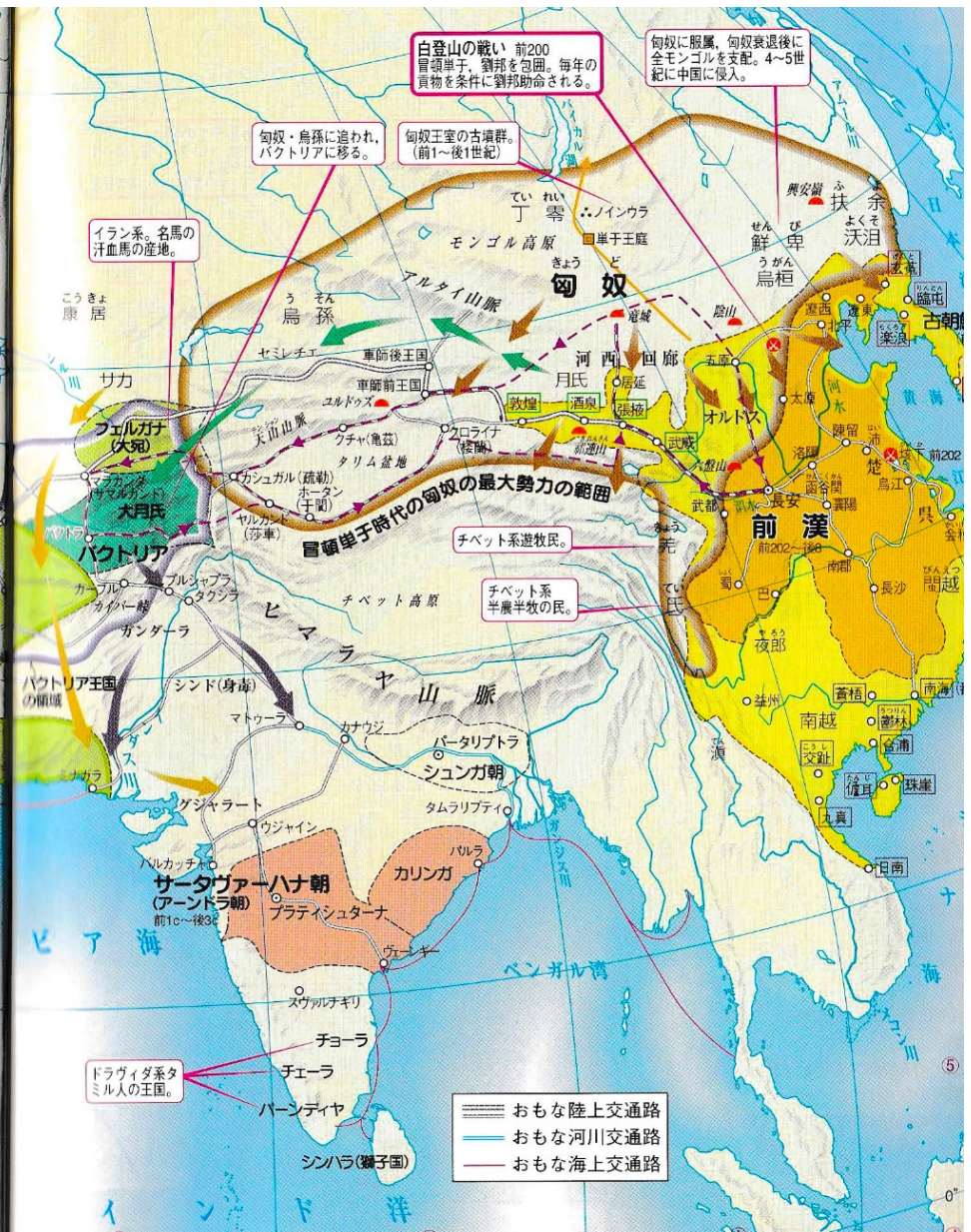
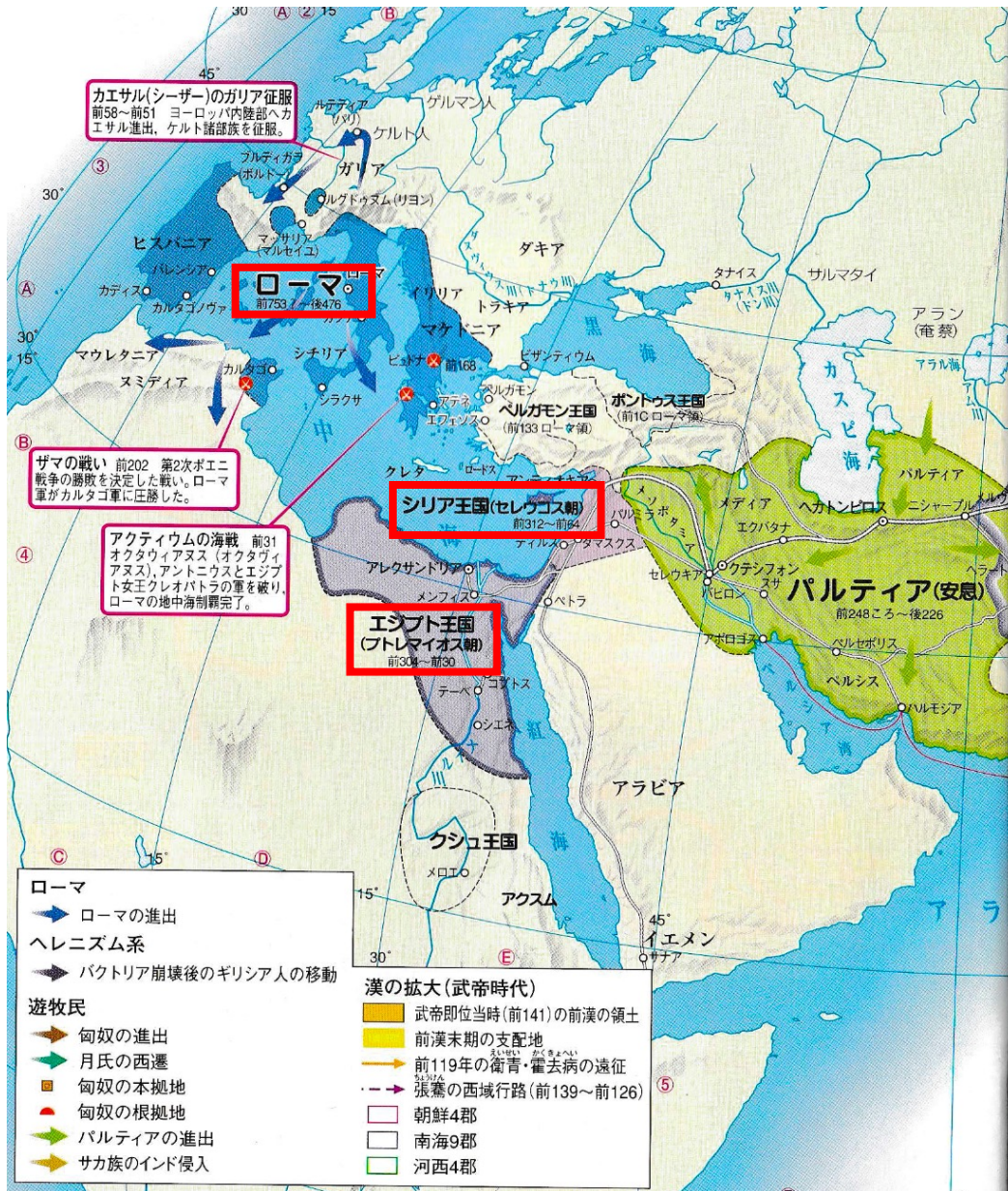
	カナン	小アジア	エジプト
B.C.2000年代	<ul style="list-style-type: none"> ・アブラハム、カナンに ・イサク ・ヤコブ ・エジプトのイスラエル人 	<ul style="list-style-type: none"> ・ウル第3王朝滅亡 ・古バビロニア王国 ・ハムラビ王メソポタミア統一 ・ヒッタイト王国 	<ul style="list-style-type: none"> ・中王国 (第11~12王朝) ・ヒクソス王朝 (第13~17)
B.C.1600年代	<ul style="list-style-type: none"> ・モーセ出エジプトと流浪 	<ul style="list-style-type: none"> ・ミタンニ王国 ・バビロニア帝国カッシート王朝 ・アッシリアの独立 	<ul style="list-style-type: none"> ・新王国 (第18~20) ・アメンホテプ四世 ・ツタンカーメン ・ラムセス二世 出エジプト
B.C.1250年代	<ul style="list-style-type: none"> ・カナン定着 ・ヘブライ王国 ・ダビデ、ソロモン ・南北分裂 (922) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒッタイト王国、海の民により滅亡 ・フェニキア ・アラム 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・ ・
B.C.700年代	<ul style="list-style-type: none"> ・イスラエル王国 (722) ・ユダ王国 (586-538) ・帰還 	<ul style="list-style-type: none"> ・アッシリア (首都ニネベ) ・新バビロニア王国 ・ネブカドネザル2世 ・アケメネス朝ペルシア ・キュロス2世 (建国) ・ダレイオス3世 (滅亡) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・ ・ ・
B.C.350年代	アレクサンドロス帝国 (マケドニア)		



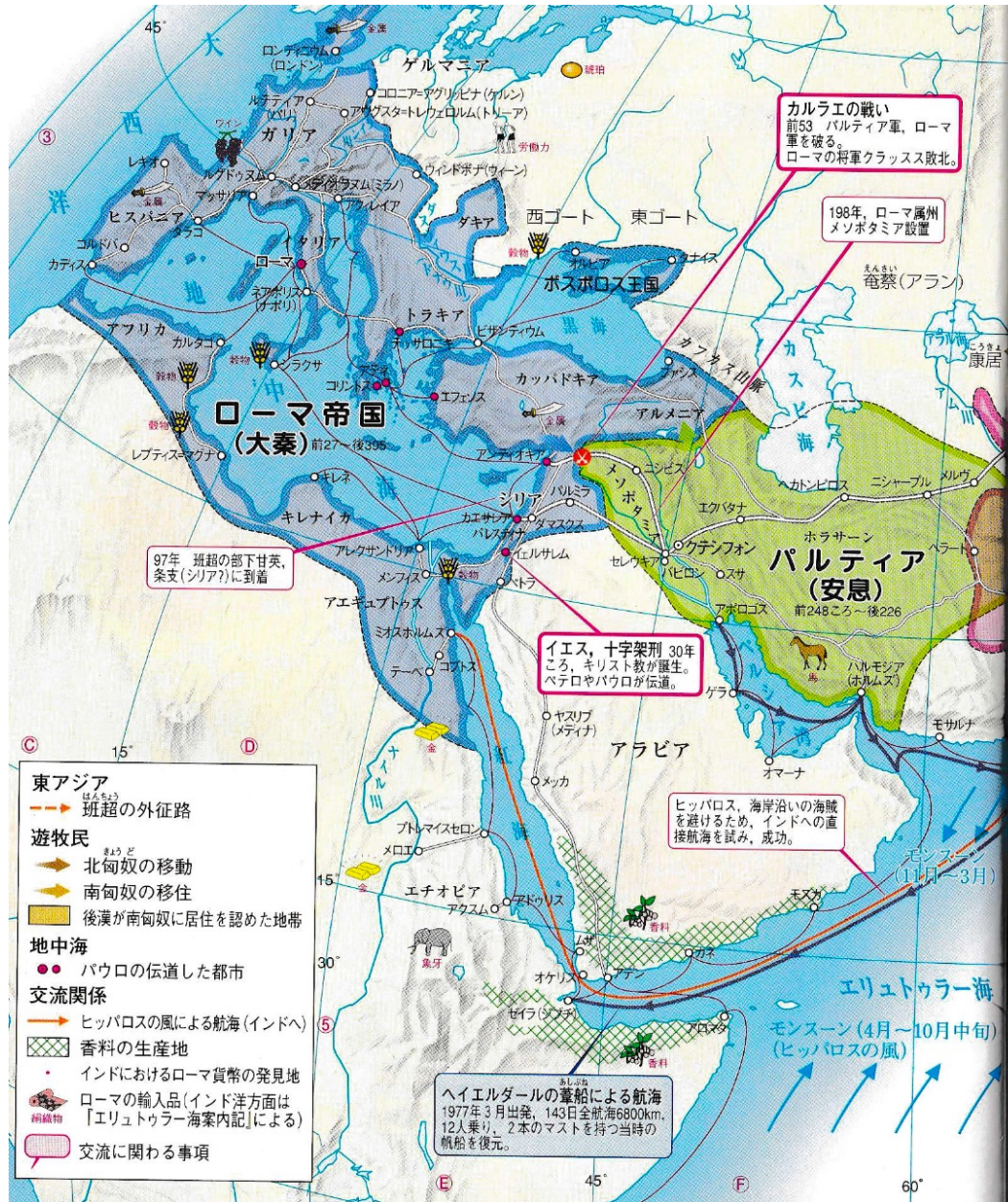
前4～前3世紀ころの世界



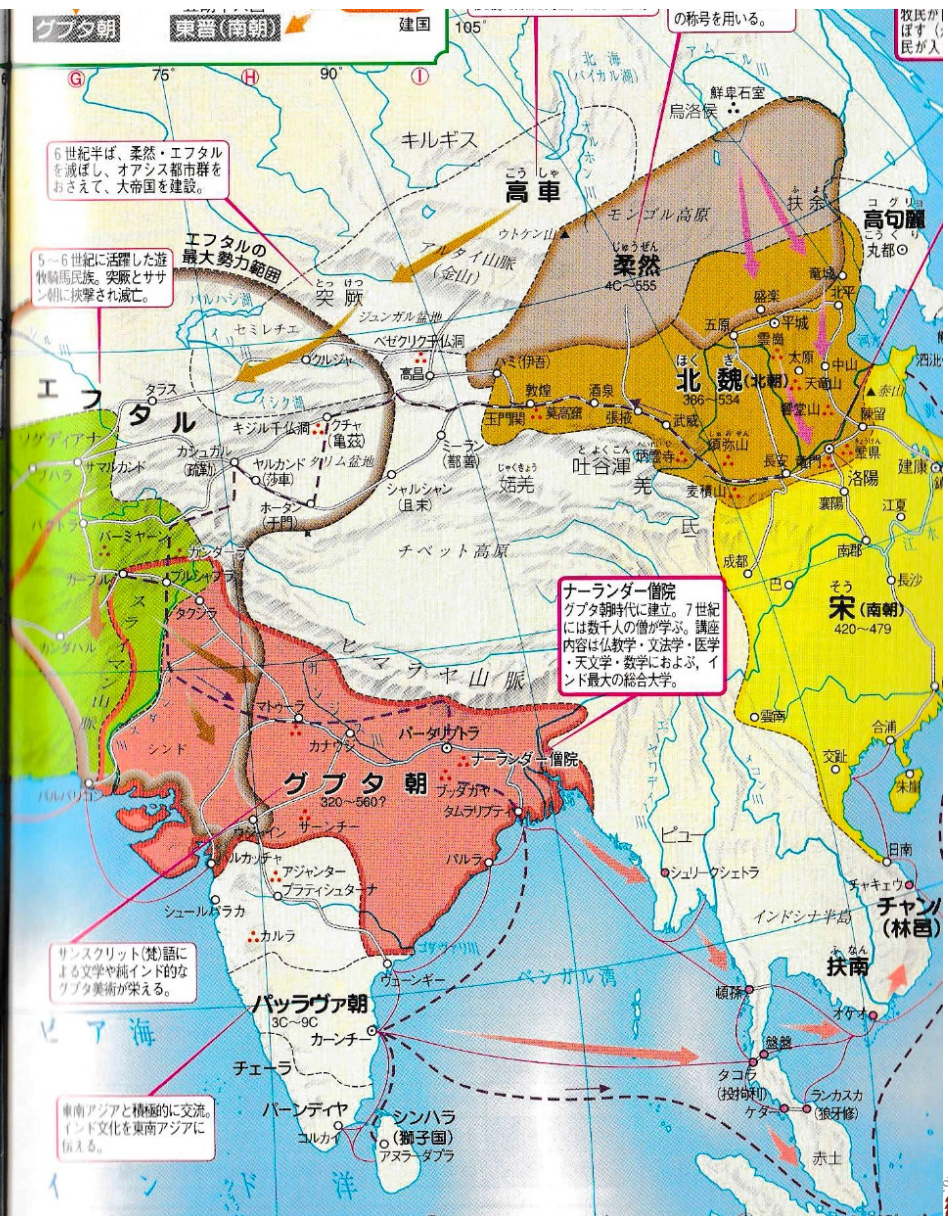
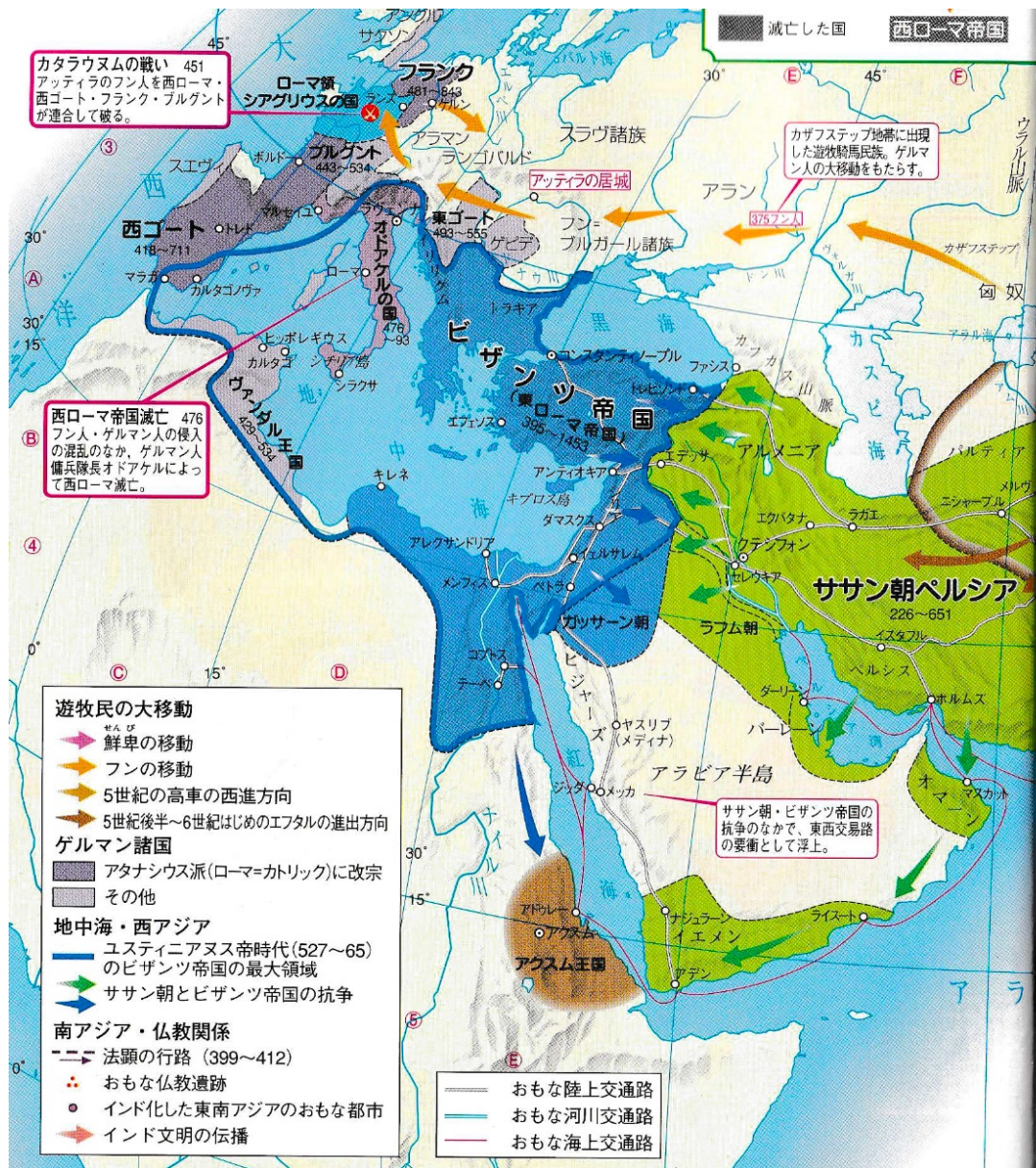
前2～前1世紀ころの世界



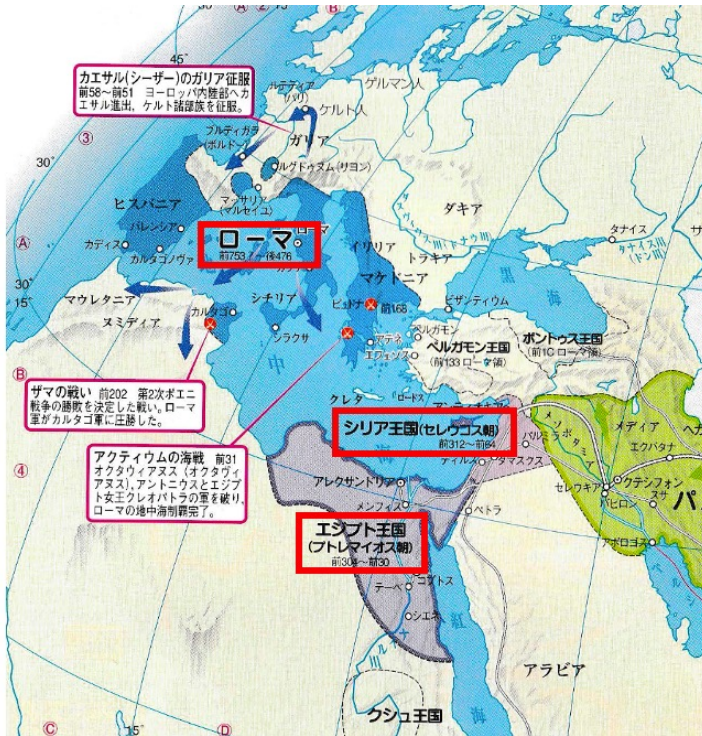
1~2世紀ころの世界



3~6世紀ころの世界



聖書が正典化されるまで



アッシリア 前722年
バビロニア 前597、前586

当時、ディアスポラのユダヤ人は、
バビロニア、ユダヤ、エジプトに
離散していた。

BC3世紀末頃、プトレマイオス2世がアレクサンドリアに住んでいたディアスポラ（離散したユダヤ人）のうち72名のユダヤ人（一説には、12部族×6人）のラビを集めて聖書を翻訳させる。

巻物として出回っていたヘブル語聖書を当時の公用語であるギリシア語に翻訳させた。

イエス時代にはすでにあつた。

AD90年頃 ヤムニア会議で旧約39巻
AD397年 カルタゴ会議で新約27巻
が正典化される。

(1) 人類の始まりについて

1 : 26

神は仰せられた。「さあ、人をわれわれのかたちとして、われわれの似姿に造ろう。こうして彼らが、海の魚、空の鳥、家畜、地のすべてのもの、地の上を這うすべてのものを支配するようにしよう。」

(2) 死の始まりについて

3 : 19

あなたは、顔に汗を流して糧を得、ついにはその大地に帰る。あなたはそこから取られたのだから。あなたは土のちりだから、土のちりに帰るのだ。」

(3) 救いの始まりについて

3 : 15

わたしは敵意を、おまえと女の間、おまえの子孫と女の子孫の間に置く。彼はおまえの頭を打ち、おまえは彼のかかとを打つ。」

(4) 信仰の始まりについて

12：1～4

1 【主】はアブラムに言われた。「あなたは、あなたの土地、あなたの親族、あなたの父の家を離れて、わたしが示す地へ行きなさい。

2 そうすれば、わたしはあなたを大いなる国民とし、あなたを祝福し、あなたの名を大いなるものとする。あなたは祝福となりなさい。

3 わたしは、あなたを祝福する者を祝福し、あなたを呪う者をのろう。地のすべての部族は、あなたによって祝福される。」

4 アブラムは、【主】が告げられたとおりに出て行った。ロトも彼と一緒にであった。ハランを出たとき、アブラムは七十五歳であった。

(5) **希望**の始まりについて

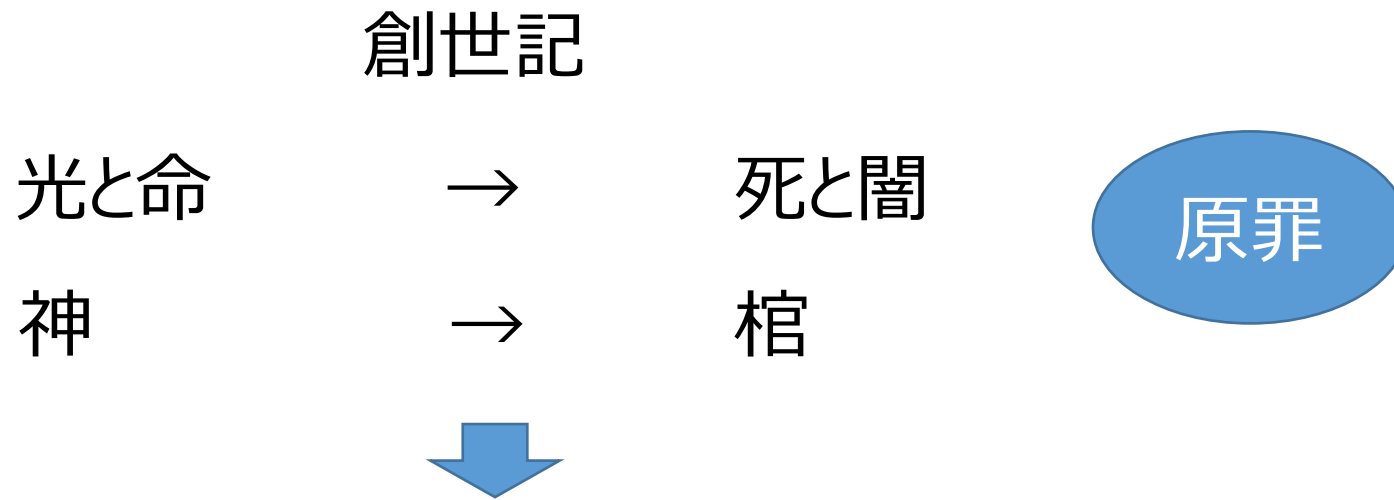
50 : 24~26

24 ヨセフは兄弟たちに言った。「私は間もなく死にます。しかし、神は必ずあなたがたを顧みて、あなたがたをこの地から、アブラハム、イサク、ヤコブに誓われた地へ上らせてくださいます。」

25 ヨセフはイスラエルの子らに誓わせて、「神は必ずあなたがたを顧みてくださいます。そのとき、あなたがたは私の遺骸をここから携え上ってください」と言った。

26 ヨセフは百十歳で死んだ。彼らはヨセフをエジプトでミイラにし、棺に納めた。

まとめ



聖書は歴史観

聖書は世界観

聖書は人生観

ヨセフは死ぬ準備が出来ていた。
彼は神がその約束を守り、いつかイスラエル人を祖国に戻してくださることを疑わなかった。

私たちは、死ぬ準備が出来ていますか？

人生においては、祝福と悲劇が繰り返しやってくる。しかしクリスチャンは、神に信頼を置き、試練の中にあっても希望を見出し前進することが出来る。

